

第2章 松戸市の現状と課題

1. 松戸市の現状
2. 松戸市の課題

1. 松戸市の現状

(1) 市の概要

- 人口：496,540 人（令和4年4月1日現在の常住人口）
- 世帯：234,032 世帯
- 面積：61.38 平方キロメートル（南北 11.5km、東西 11.4km）

松戸市は、千葉県の東葛地域(北西部)に位置し、西側は江戸川を挟んで東京都葛飾区、江戸川区、埼玉県三郷市に隣接し、南側は市川市、東側は鎌ヶ谷市、東側から北側にかけて柏市・流山市と隣接しています。

また、都心から 20 キロメートル圏に位置し、市内には複数の鉄道路線や幹線道路が整備されています。一方で、江戸川や 21 世紀の森と広場をはじめとする多彩な水やみどりの資源が存在し、農地や樹林地、河川、公園など、自然的な土地利用が約4分の1を占めています。



出典：松戸市ホームページ

コラム②

松戸市食育シンボルキャラクター「ぱくちゃん」

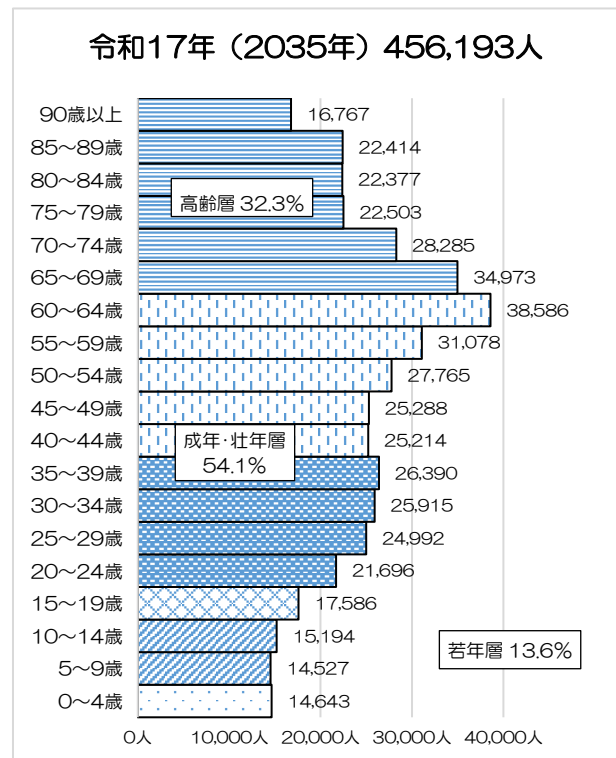
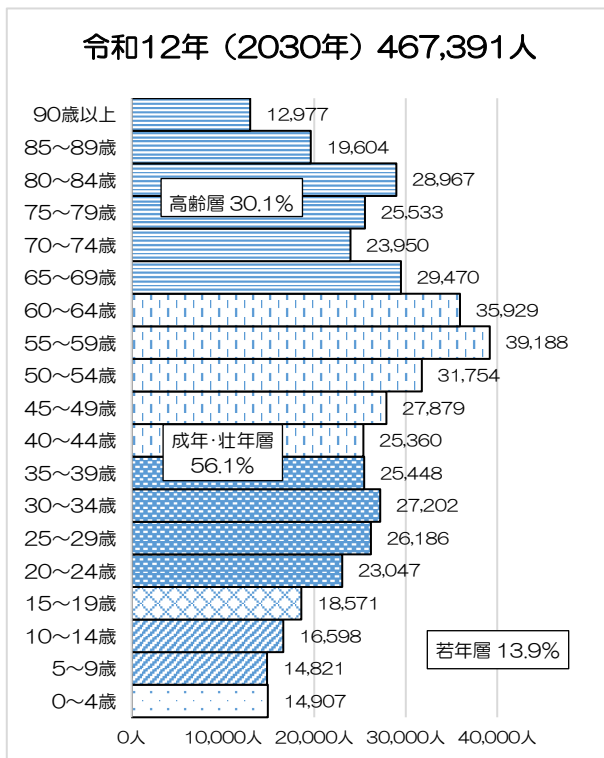
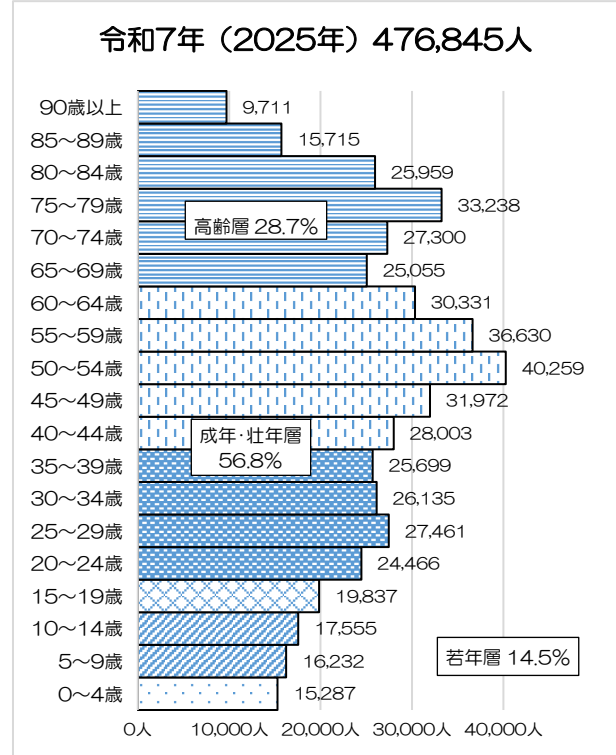
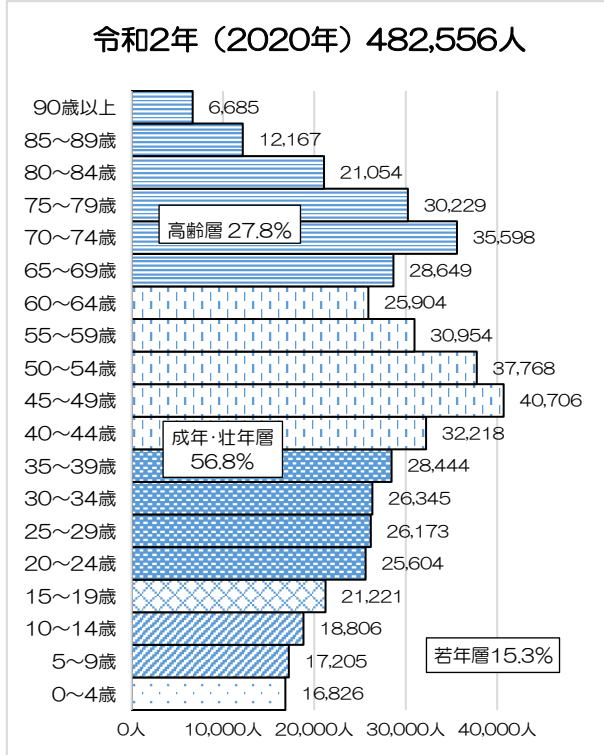
「ぱくちゃん」は、松戸市の食育のシンボルキャラクターでナスの妖精です。

平成 19 年5月 15 日号の広報まつどでキャラクターを募集し、559 通の応募の中から市長賞に選ばれた、松戸市立第一中学校の生徒（当時）の作品をもとにデザインされました。松戸市のイベントや刊行物に登場し、市の食育の推進のために活動しています。



○人口推計

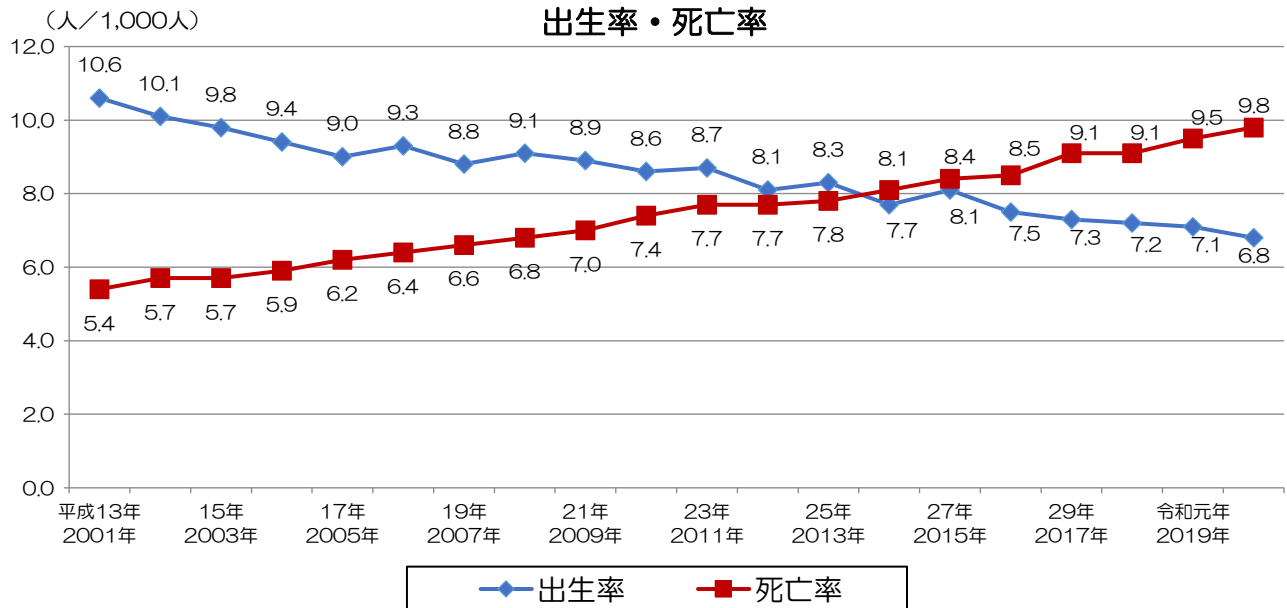
令和2年時点で45歳から49歳の年齢層が最多となっており、以降もその層が年齢の経過と共に最多となる状況が予測されています。以後15年の間に総人口は減少し、年代では若年層が減少、高齢層が増加し、少子高齢化の進行が予測されています。



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に作成。

○松戸市の出生率と死亡率

平成 26 年以降、死亡率が出生率を上回り、その差が大きくなっています。

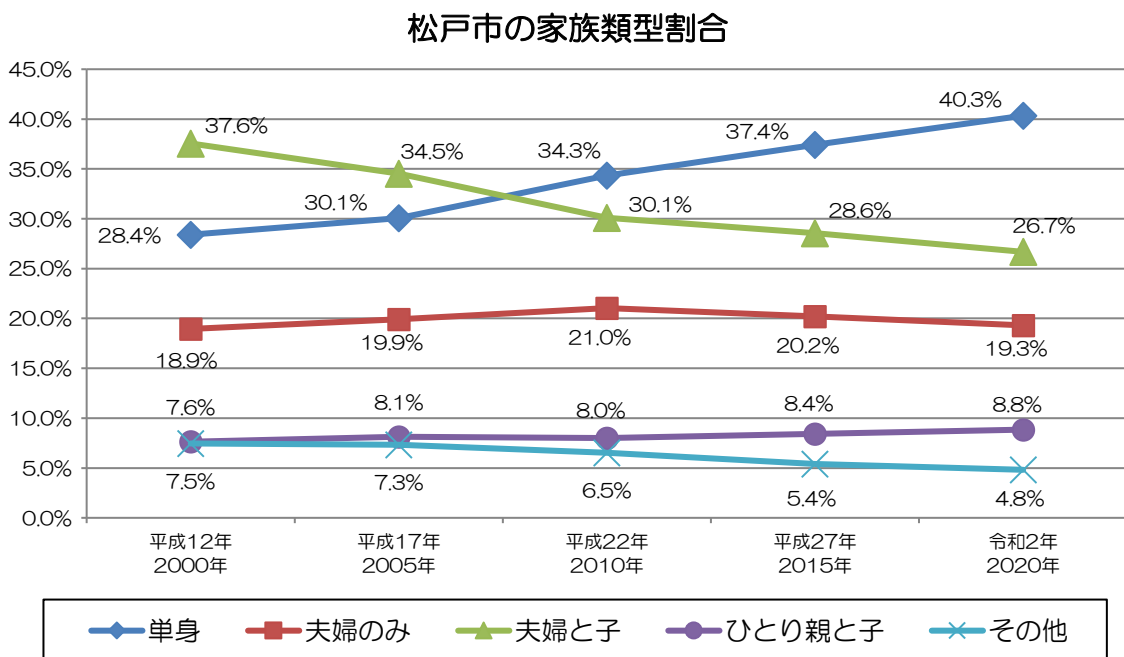


※千葉県衛生統計年報(人口動態調査)「第 2-1 表 千葉県・保健所・市町村別人口動態総覧」を基に作成

○家族類型

単身世帯のほか、夫婦や親と子などの核家族*が多く、3世代以上が同居する世帯(「その他」に含む。)は少なくなっています。

夫婦と子の世帯は減少する一方、単身世帯が増加傾向にあり、令和 2 年には約 4 割を単身世帯が占めています。

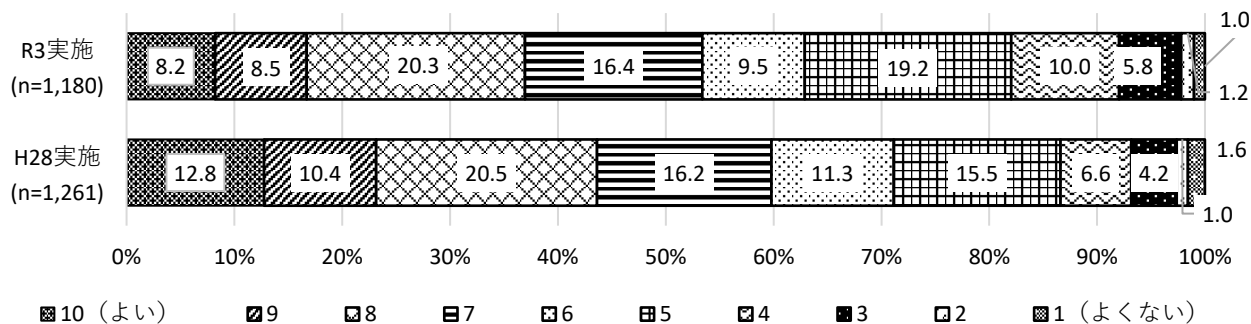


※松戸市統計書(国勢調査)「世帯の家族類型(16 区分)別一般世帯数」を基に作成

(2) 市民の健康の現状

①全身の健康状態

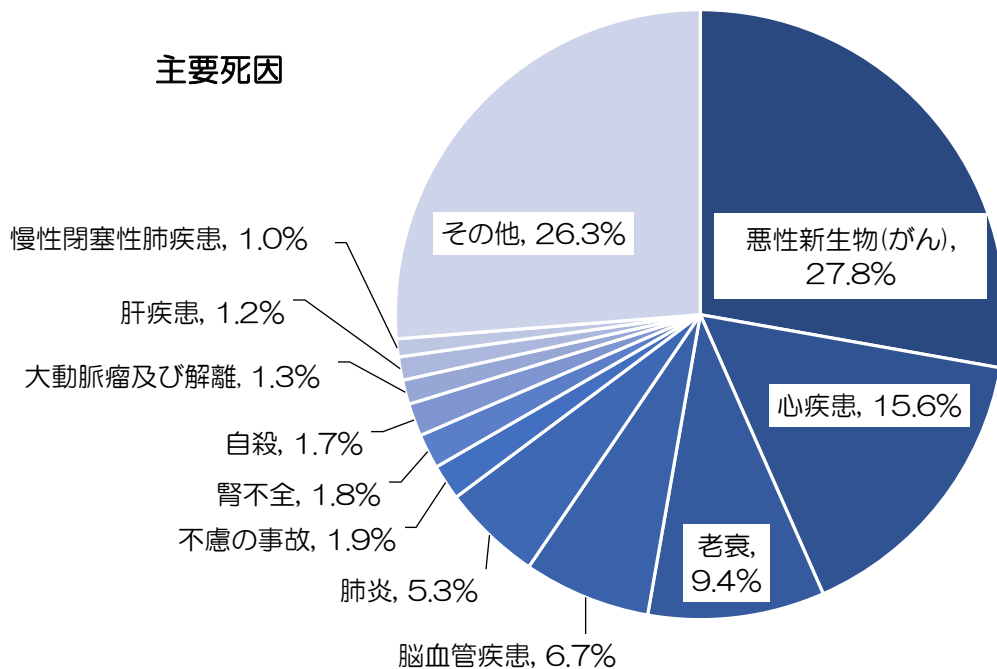
よい（6～10）と回答した20歳以上の市民の割合は約63%で、平成28年度の調査時点より低下しています。



※出典：松戸市「令和3年度食育に関する市民及び大学生アンケート調査」

②主要死因

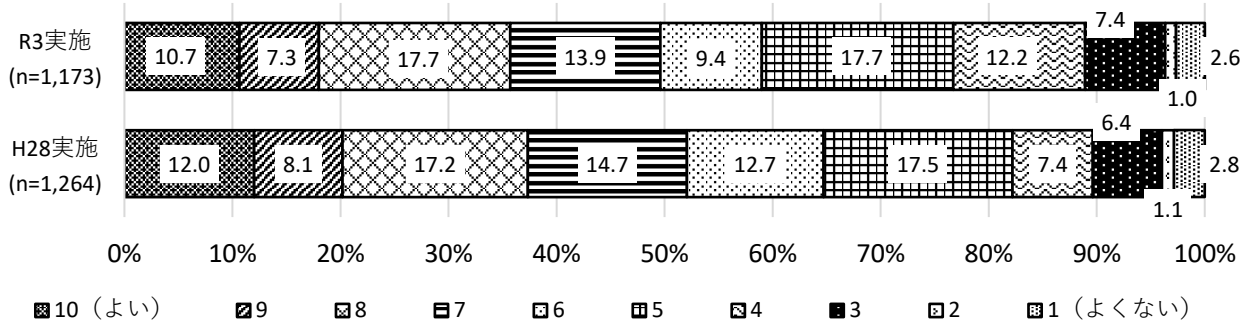
老衰以外の死因としては、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患で約半数を占めます。これらの疾患の中には、食事を始めとする生活習慣が原因となって発症するものがあるとされています。



※令和2年 千葉県衛生統計年報(人口動態調査)「第7-3表 死亡数、死亡の場所、死因(11位)・市町村別」を基に作成

③口腔の健康状態

よい（6～10）と回答した20歳以上の市民の割合は59%で平成28年度の調査時点より低下しています。

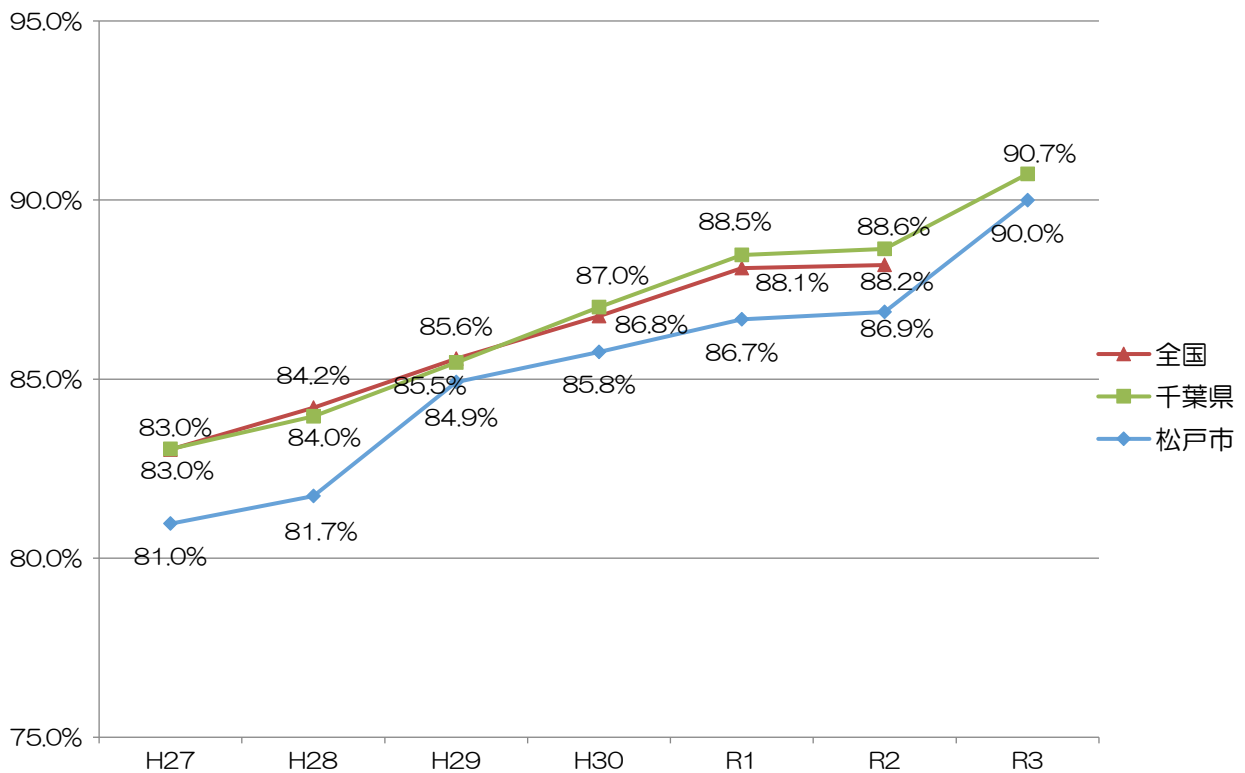


※出典：松戸市「令和3年度食育に関する市民及び大学生アンケート調査」

④児童の歯の健康状態

(i) むし歯のない3歳児の割合

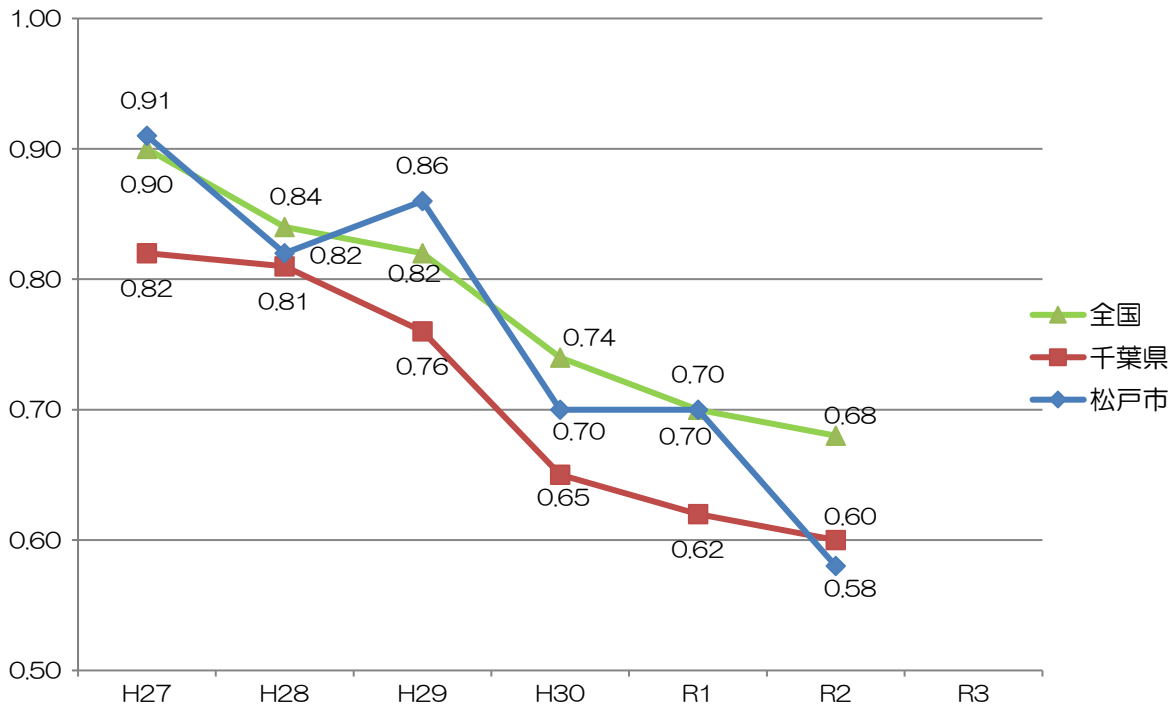
むし歯のない3歳児の割合は増加傾向にあり、改善しています。



※厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告(地域保健編)市区町村表」、千葉県「市町村歯科健康診査(検診)実績報告書」を基に作成。

(ii) 12 歳児のむし歯の平均本数

12 歳児のむし歯の平均本数は減少傾向にあり、改善しています。



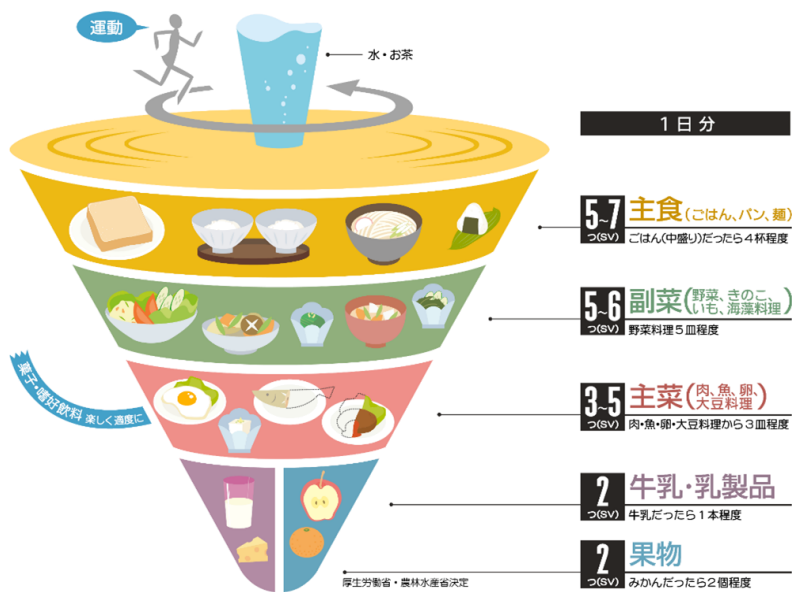
※千葉県「児童生徒定期健康診断結果」を基に作成。

コラム③

食事バランスガイド

「食事バランスガイド」とは、健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」を具体的な行動に結びつけるものとして、平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が共同で作成したものです。

1日に「何を」、「どれだけ」食べたらよいか考える際の参考にいただけるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量がイラストで分かりやすく示されています。

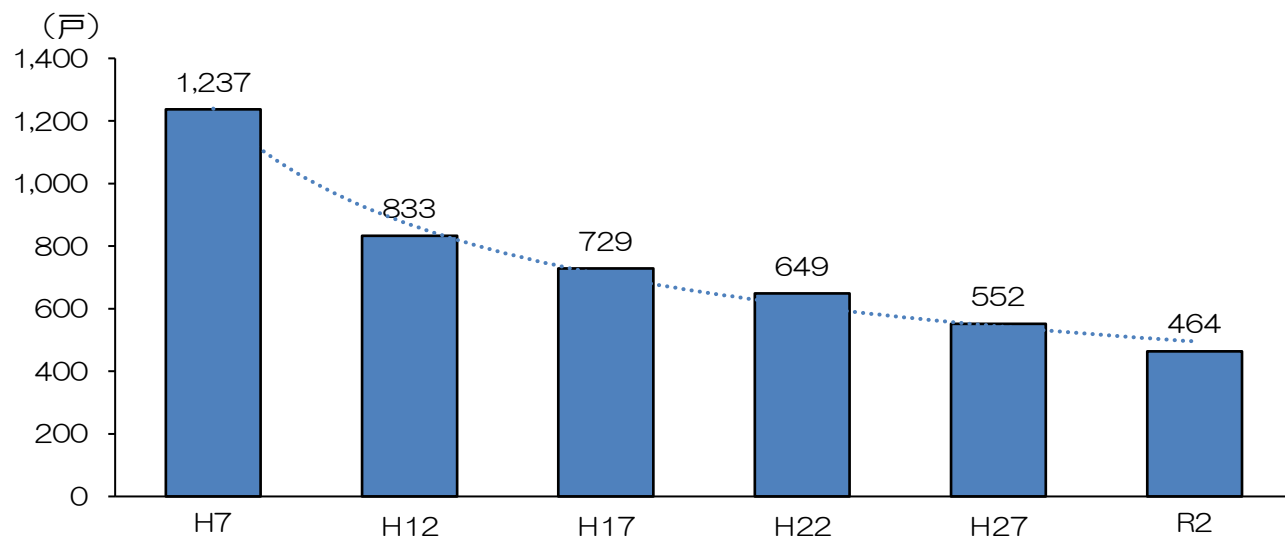


(3) 市の農業の現状

①農業の現状 ※2020年農林業センサス*を基に作成。

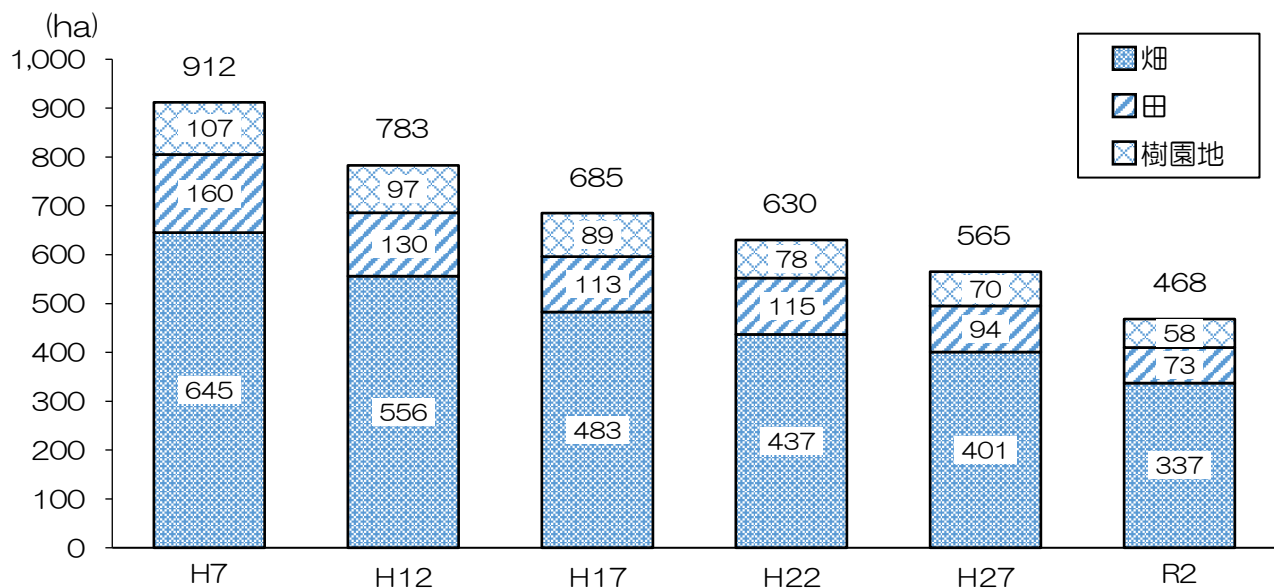
本市は都心から約20kmの住宅都市でありながら、経営耕地*面積は468ha、農業従事者数は1,304名を数え、野菜、果樹の生産地として都市型農業が行われています。

(i) 販売農家*戸数



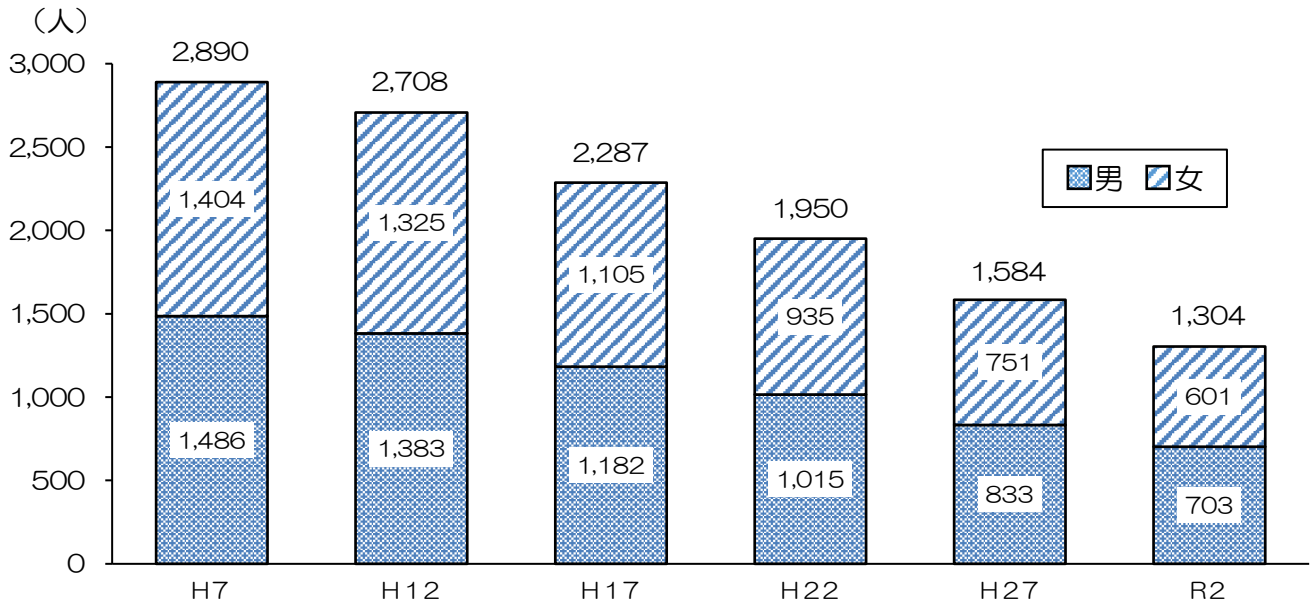
販売農家*戸数は、平成7年に1,237戸であったものが、令和2年には464戸となっており、6割以上減少しています。

(ii) 経営耕地*面積



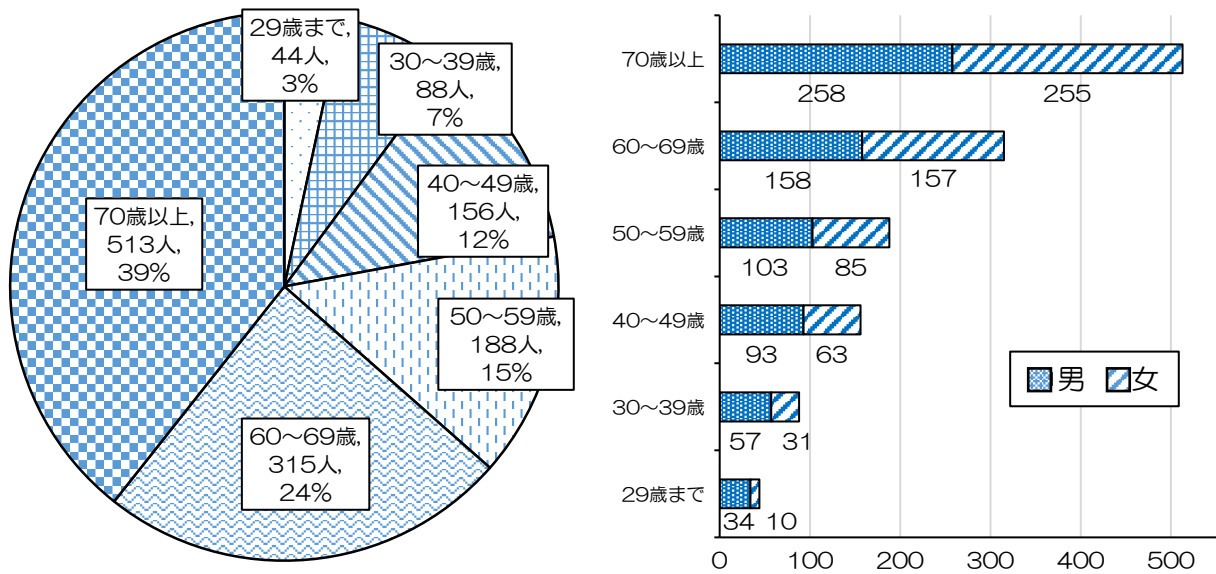
経営耕地*面積は、平成7年に912haであったものが、令和2年には468haとなっており、半数近く減少しています。

(iii) 農業従事者数



農業従事者は、平成7年に2,890人であったものが、令和2年には1,304人となっており、半数以上減少しています。

(iv) 年代別・男女別農業従事者数



年代別では、60歳以上の合計が828人で全体の63%を占め、農業従事者の高齢化が伺えます。男女別では各年代で男性の方が多く、特に若い世代では男性の割合が大きい傾向にあります。

②松戸市の特産品

○松戸の梨

松戸は明治時代から梨の特産地で、「二十世紀梨」の原産地として知られています。

「二十世紀梨」は八柱村（現在の松戸市大橋）の松戸寛之助少年（当時 13 歳）が親類の家のごみ捨て場で偶然見つけた苗木を育て、10 年後に収穫に成功したものです。

現在、市内では「幸水」、「豊水」、「かおり」など多数の品種が栽培されています。



○松戸えだまめ

松戸市は県内でも有数の枝豆生産地です。市内全域で茶豆系、青豆系の多品種が積極的に栽培されています。

市では「松戸産の枝豆だから」という理由で選ばれることを目指し、ブランド化を推進しています。出荷規格、鮮度管理、生産管理などを定め、条件を満たした松戸産の枝豆を「松戸えだまめ」と呼んでいます。



○あじさいねぎ

「あじさいねぎ」は松戸市北部（小金地区周辺）で栽培される葉ねぎです。生産地にある紫陽花で有名な本土寺（あじさい寺）にちなんで「あじさいねぎ」と名付けられました。

味わい深く、彩が鮮やかなことから「味彩（あじさい）ねぎ」と呼ぶ人もいます。

シャキシャキとした小気味良い食感と柔らかさ、深い香りと辛みが特徴です。



○矢切ねぎ

矢切地区で生産されているねぎで、1870 年頃(明治 3 年)から栽培されています。現在の東京都江東区砂町から「千住ねぎ」の種を譲り受け栽培したところ、江戸川が洪水で氾濫したときに、上流から運ばれた砂と土がちょうどよく混ざり栽培に適していたことから、年々作付けも増えて 1880 年頃(明治 13 年)からは市場へ出荷されるようになりました。

1917 年(大正 6 年)には矢切葱採種組合が結成され、優良品種の採種に成功し、その種子を出荷するようになり、種子の販売地としても全国に知られるようになりました。

矢切ねぎの特徴は、白身が長く、太く、旨味があり「焼いてよし、鍋でよし」と言われる高級ねぎです。



※出典：松戸市都市農業振興計画、「まつどの農業リーフレット」

【市内各地区の特徴と主な農産物】

地区名	地区の特徴	主な農産物
小金地区	本土寺や小金城址など、多くの歴史資源を有する地域です。江戸時代から宿場町として栄え、駅前の商業化が進んでいます。一方で、優良な農地も広く残っており、あじさいねぎの栽培やいちごの施設栽培が盛んです。	あじさいねぎ えだまめ いちご
明・六和地区	食料品製造業、飲料製造業などの工場が立地し、県内でも有数の内陸工業団地です。江戸川沿いの低地部では水田が広がり、多くの農地が残されています。	ほうれんそう えだまめ 米
矢切地区	江戸川や坂川沿いの区域には水田が広がっています。また、矢切ねぎを特産とし、優良な農地が残されています。低地部と台地部の境に長く連なる斜面林は、地域の貴重な自然資源であるとともに、本市を代表する景観にもなっています。	矢切ねぎ キャベツ 米
常盤平地区	地域の北西には斜面林がまとまって残り、周辺の21世紀の森と広場や農地とともに自然豊かな地域です。さくら並木やけやき並木など街路樹が立派に成長し、春には常盤平さくらまつりが開催されるなど、市民の憩いの空間となっています。	ねぎ かぶ えだまめ
東部地区	地形は概ね台地状で、一部市街化区域を除いて大部分が自然的な土地利用がされています。南側の高塚新田では梨もぎができる観光梨園が集積しており、本市の重要な観光資源にもなっています。	梨 ねぎ かぶ えだまめ トマト
五香・六実地区	地域の南側には梨園を中心とした農地が広がり、市街化区域には生産緑地地区*が点在するなど、多くの農地が残されています。	梨 ねぎ いちご だいこん

※出典：松戸市都市農業振興計画

コラム④

松戸産農産物ブランドシンボルマーク「みのりちゃん」

松戸市では松戸産農産物のシンボルマークとして「みのりちゃん」、キャッチフレーズとして「松戸いきいき地場野菜・果実」を定め、松戸産農産物のブランド化を推進しています。

「みのりちゃん」マークやキャッチフレーズは、生産技術の確かな農家であることや、特定の出荷規格に沿った農産物であることなど、一定の要件を満たした農家や農産物のみ表示することができます。



③千葉県農産物の全国ランキング：松戸市が主要産地となっている農産物（令和元年）

全国第1位

品目	産出額	全国に占める割合	千葉県内主要産地
ねぎ	151 億円	11%	柏市、松戸市、山武市、横芝光町、茂原市
かぶ	32 億円	28%	柏市、東庄町、松戸市
なし	91 億円	14%	白井市、市川市、鎌ヶ谷市、船橋市、市原市、松戸市 他

全国第2位

品目	産出額	全国に占める割合	千葉県内主要産地
えだまめ（未成熟）	41 億円	11%	野田市、松戸市、船橋市、君津市、鴨川市

全国第6位

品目	産出額	全国に占める割合	千葉県内主要産地
こまつな	14 億円	5%	千葉市、船橋市、松戸市、柏市

※千葉県「千葉県農林水産業の動向（令和3年度版）」を基に作成

④千葉県の農業産出額上位 10 品目（令和元年）

	品目	産出額	全国に 占める 割合	全国 順位	上位県			県内 主要産地
					1 位	2 位	3 位	
1 位	米	689 億円	3.9%	8 位	新潟県	北海道	秋田県	香取市、旭市、 成田市
2 位	豚	442 億円	7.2%	4 位	鹿児島県	宮崎県	北海道	旭市、成田市、 東庄町
3 位	鶏卵	326 億円	7.1%	2 位	茨城県	千葉県	鹿児島県	いすみ市、旭市、 香取市
4 位	生乳	226 億円	3.0%	5 位	北海道	栃木県	熊本県	南房総市、香取市
5 位	かんしょ (さつまいも)	176 億円	18.3%	2 位	茨城県	千葉県	鹿児島県	成田市、香取市、 多古町
6 位	ねぎ	151 億円	11.4%	1 位	千葉県	埼玉県	茨城県	柏市、松戸市、 山武市、横芝光町
7 位	にんじん	102 億円	21.8%	2 位	北海道	千葉県	徳島県	富里市、八街市、 山武市
8 位	肉用牛	100 億円	1.3%	20 位	鹿児島県	北海道	宮崎県	旭市、袖ヶ浦市、 匝瑳市
9 位	だいこん	94 億円	12.2%	1 位	千葉県	北海道	青森県	銚子市、旭市、 市原市
10 位	トマト	92 億円	4.3%	5 位	熊本県	北海道	愛知県	旭市、富里市、 八街市

※農林水産省「生産農業所得統計(令和元年)」、千葉県「千葉県農林水産業の動向(令和3年度版)」を
基に作成。

2. 松戸市の課題

(1) アンケート調査の結果から見えてきた課題

第4次松戸市食育推進計画の策定の基礎資料とするため、令和3年7月に市民と市内の大学に通学する学生を対象とした食育に関するアンケート調査を実施しました。

調査結果については別冊の報告書に詳細を記載しており、市ホームページや松戸市行政資料センターにて公開しています。

○松戸市ホームページ「食育に関する市民及び大学生アンケート調査報告書」

<https://www.city.matsudo.chiba.jp/shiminokoe/enquete/kekka/syokuiku.html>



①調査概要

【市民アンケート調査】

調査対象：松戸市在住の20歳以上の市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

調査方法：郵送による調査票の配布、回収（自記式）

調査期間：令和3年7月10日から令和3年8月25日まで

回収率：40.3%（1,209人 / 3,000人）

【大学生アンケート調査】

調査対象：市内4大学（千葉大学園芸学部、聖徳大学、流通経済大学、日本大学松戸歯学部）に通学する学生1,678人

調査方法：Web上でのアンケート実施（千葉大学園芸学部）及び、大学関係者による調査票の配布、回収（聖徳大学・流通経済大学・日本大学松戸歯学部）

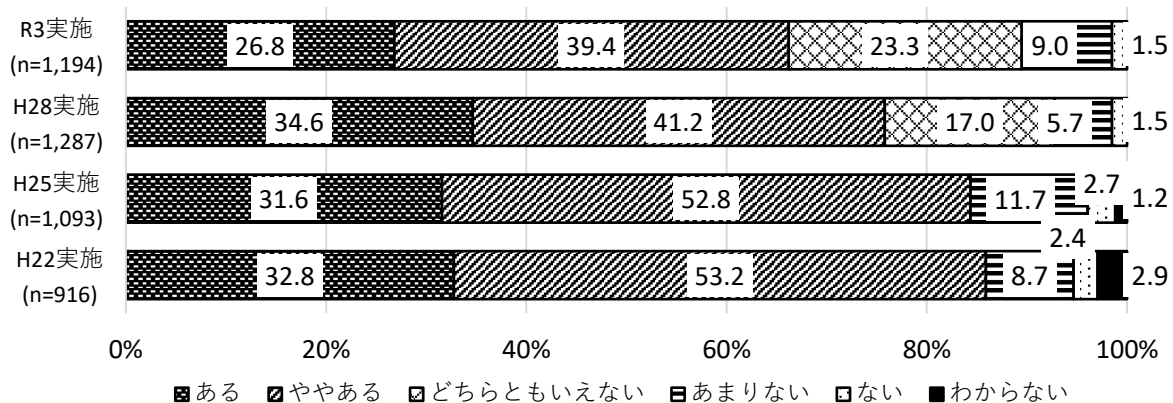
調査期間：令和3年7月5日から令和3年8月30日まで

回収率：54.0%（906人 / 1,678人）

②市民アンケート調査結果の抜粋

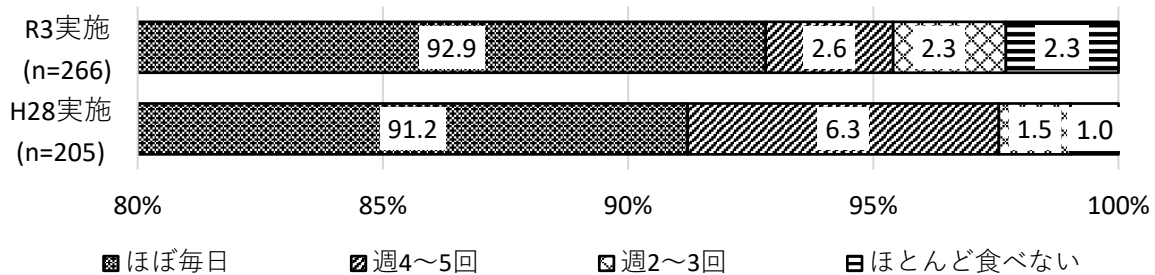
○あなたは「食育」に関心がありますか？（1つに○）

食育への関心は、約3分の2の人が肯定的な回答をしていますが、過去の結果と比べて低下しています。

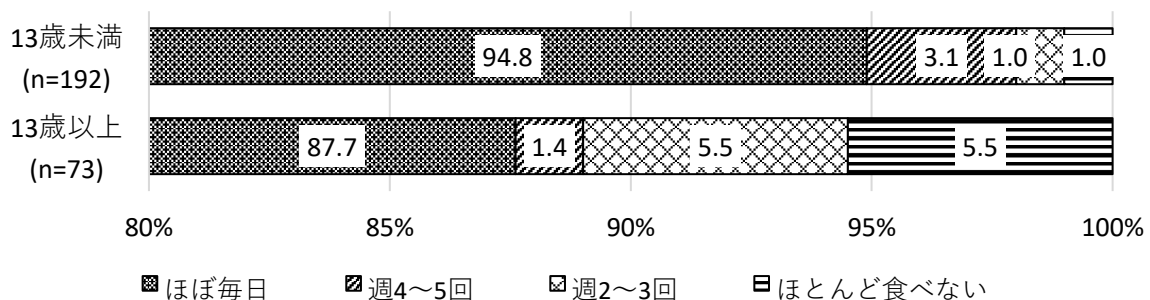


○お子様は朝食をどの程度の頻度でとっていますか？（1つに○）

全体の9割以上が毎日朝食をとっており、「ほとんど食べない」との回答は2.3%とごくわずかですが、前回に比べて悪化しています。また、13歳以上ではその割合は5.5%と更に悪化します。

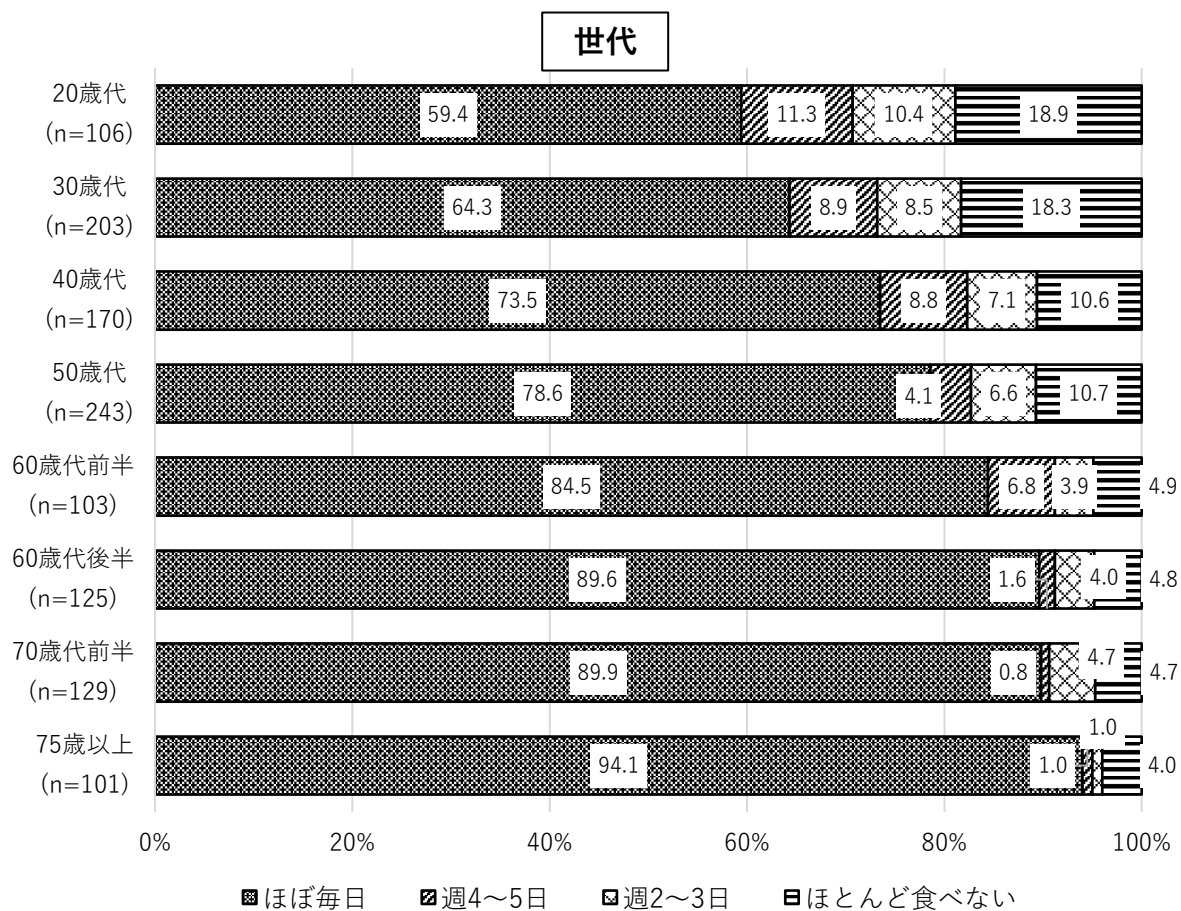
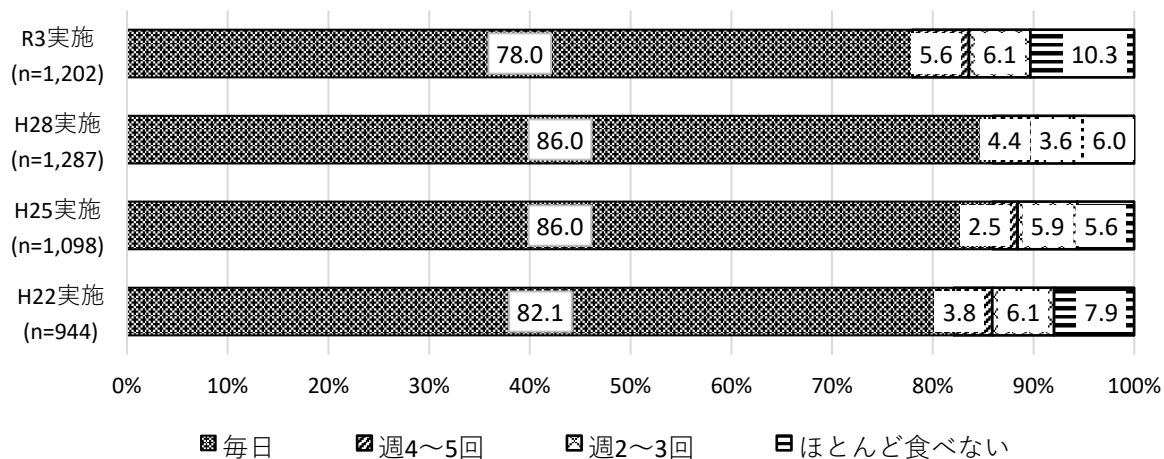


（朝食の頻度 × 年齢）



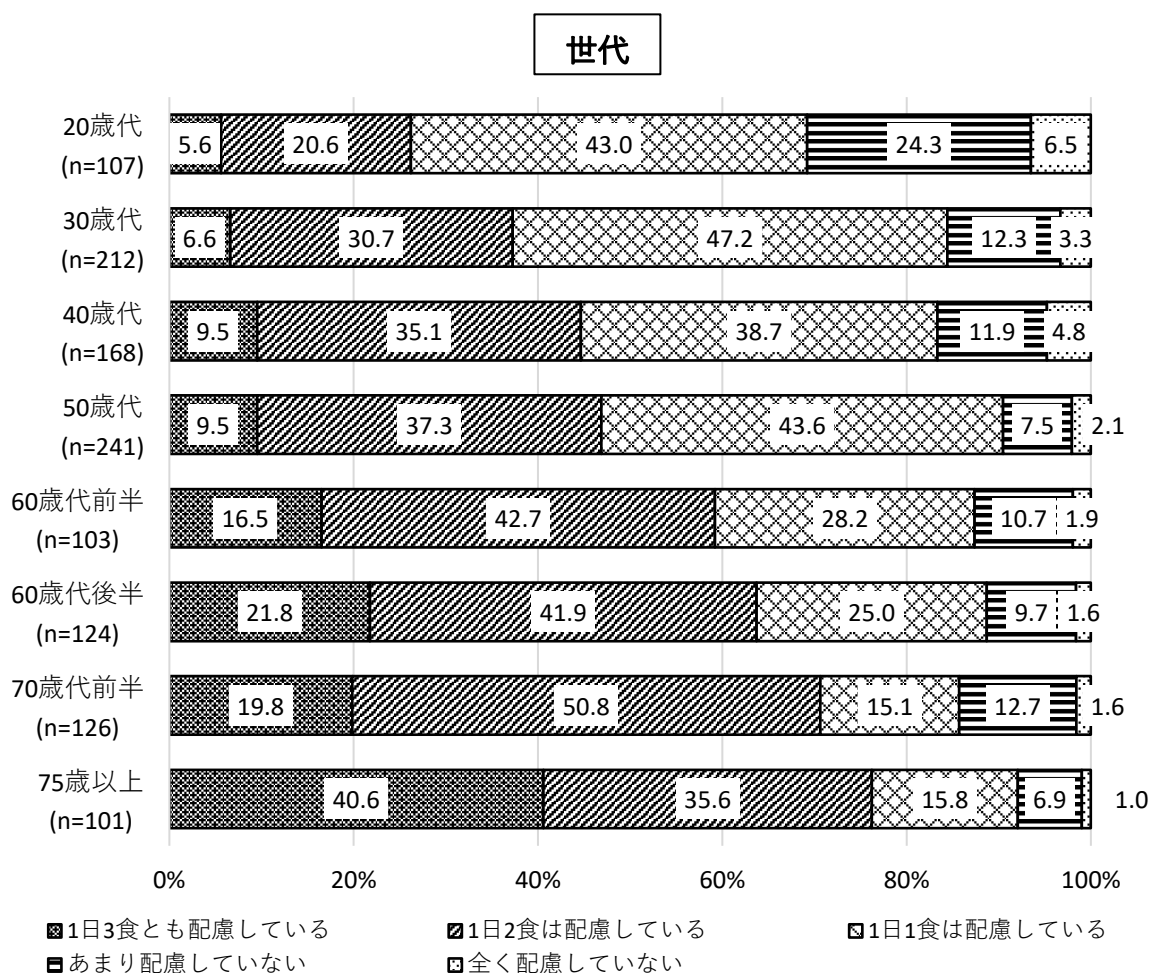
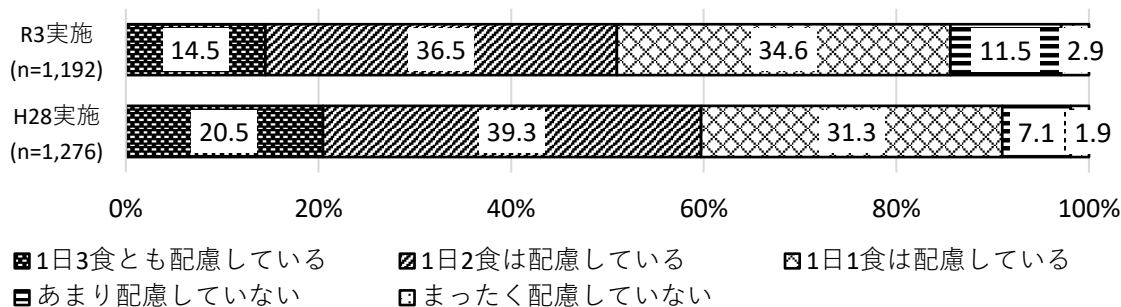
○あなたは朝食をどの程度の頻度でとっていますか？（1つに○）

毎日朝食をとる人の割合は8割を切っており、「ほとんど食べない」が約1割と前回に比べて悪化傾向を示しています。世代別では、若い世代ほど朝食をとる割合が低く、世代が上がるにつれて、割合が高くなっています。



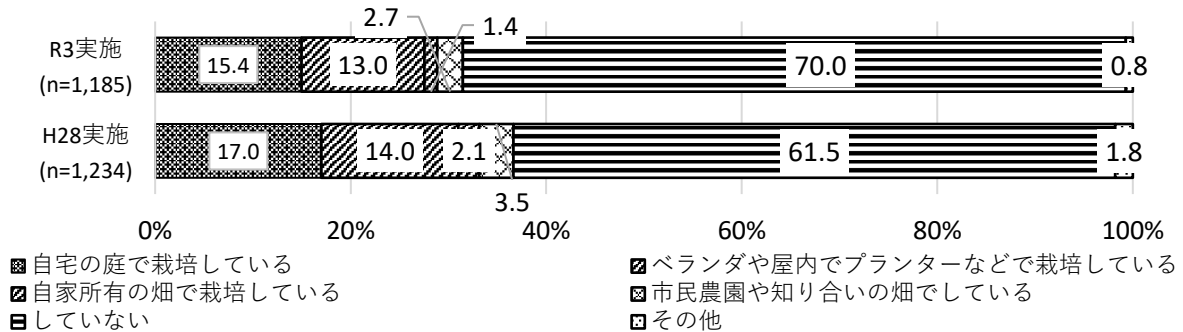
○あなたは主食・主菜・副菜を組み合わせるように配慮した食事をとっていますか？
 (1つに○)

前回と比べて「1日3食」または「1日2食」配慮している人の割合が減少し、悪化傾向にあります。また、若い世代ほどその割合が低くなっています。



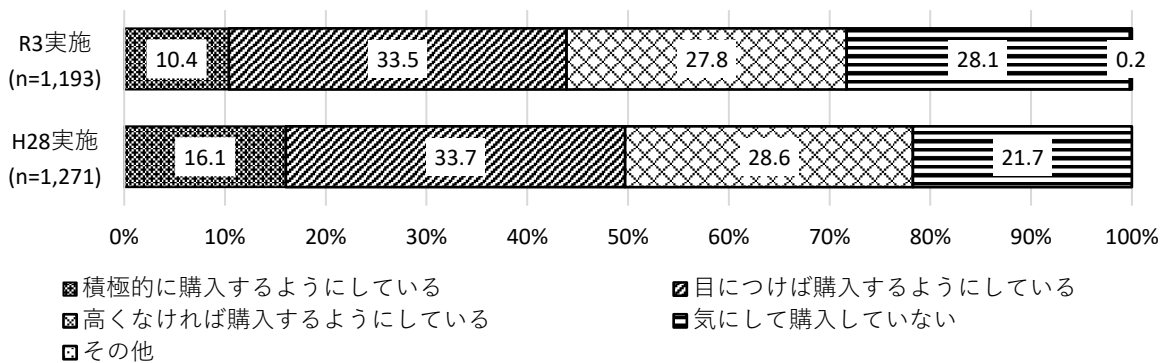
○あなたは野菜や果物などの栽培(趣味を含む)をしていますか？(該当するものすべてに○)

栽培していない人が7割以上を占め、いずれかの場所で栽培「している」を選んだ人の割合は減少しています。



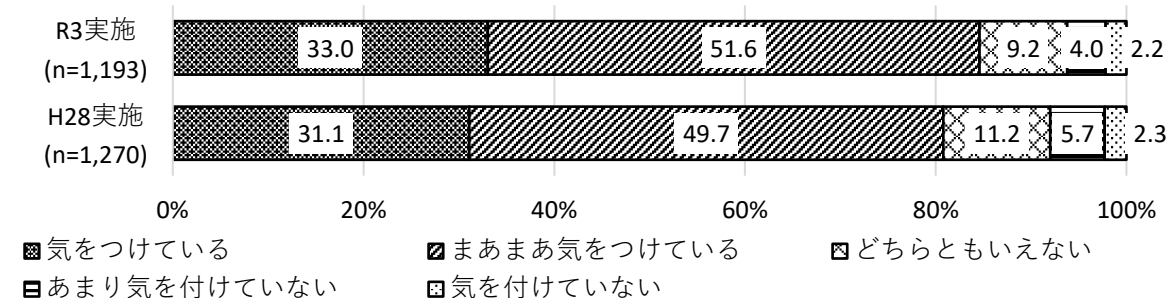
○あなたは地元産(松戸産を含む千葉県産)の食材を購入していますか？(1つに○)

「目につけば購入する」との回答が最も多かった反面、「気にして購入していない」という回答も3割近くに達し、地元産の食材を購入する市民の割合は減少傾向にあります。



○食品ロス削減のために意識して適量の食材を購入、調理、外食時には注文していますか？(1つに○)

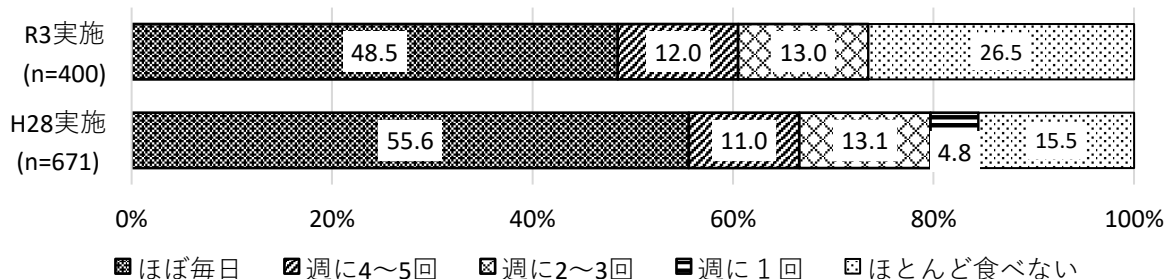
食品ロス削減の取り組みは8割以上の方が実施しており、前回よりも増加しています。



③大学生アンケート調査結果の抜粋

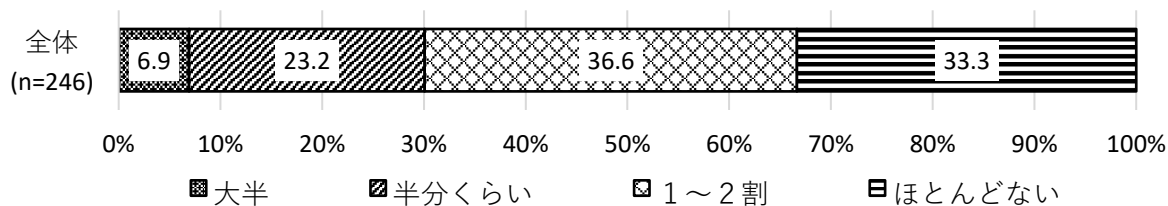
○あなたは朝食をどの程度の頻度でとっていますか。(1つに○)

朝食をほぼ毎日とっている学生は前回よりも減少し、半数に達していません。



○夕食のうち、「中食*」の割合は品数でどのくらいですか。(1つに○)

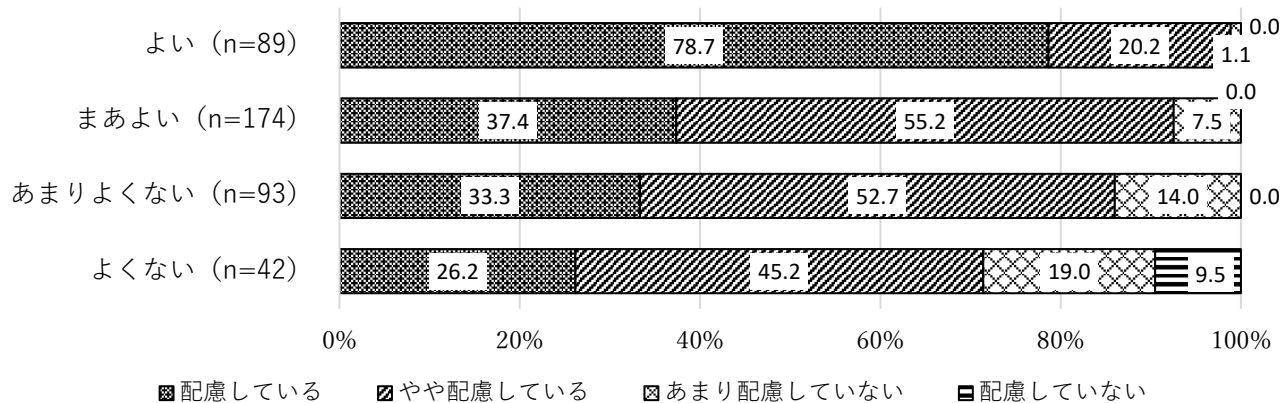
約3分の2の学生が少なからず「中食*」を利用しており、若い世代の食生活では一般的になっていることが伺えます。



○主食・主菜・副菜を組み合わせるなど、栄養バランスに配慮していますか。

(健康状態×栄養バランスへの配慮)

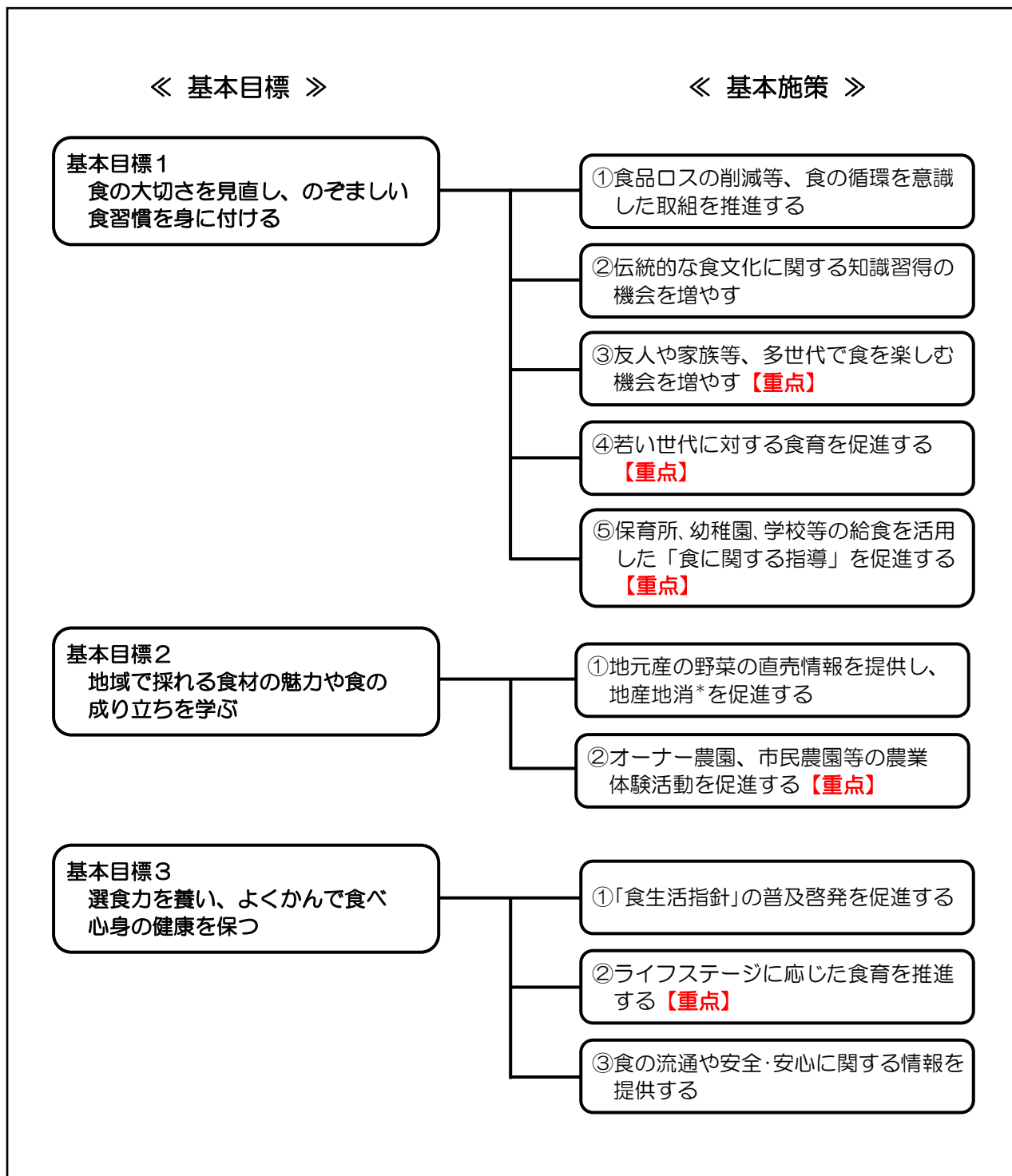
健康状態と栄養バランスのクロス集計では、両者の正の相関関係がみられ、健康状態がよい学生ほど栄養バランスに配慮していることがわかります。



(2) 第3次松戸市食育推進計画の評価

①第3次松戸市食育推進計画の基本目標と基本施策

第3次松戸市食育推進計画では、以下の3つの基本目標を達成するため、10の基本施策を設けました。また、基本施策のうち5つを重点施策として設定し、食育の推進に取り組みました。



②モデル事業

第3次松戸市食育推進計画の基本目標を達成するため、モデル事業を設定、実施しました。なお、第2次松戸市食育推進計画のモデル事業の一部も継続して実施しました。

○松戸食育まつり

食の大切さを見直し、望ましい食習慣を身につけてもらうことを目的に、食に関する体験型のイベントとして「松戸食育まつり」を開催しました。イベントの運営は食品関連事業者や市内大学の学生ボランティアに協力してもらいました。

【主な内容】

(i) 対面開催（～令和元年度）

- ・鰹節削り体験 ・歯磨き指導 ・野菜クイズ ・清涼飲料水の糖度測定
- ・松戸市食育かるた体験 ・食育アプリ体験 ・魚の手開き体験 ・食育劇
- ・景品(松戸産えだまめ)の贈呈 等



(鰹節削り体験)



(食育かるた体験)

(ii) オンライン開催（令和3年度、4年度）

- ・食育絵本の読み聞かせ ・オンライン親子料理教室 ・食育クイズ
- ・リモートによる市内の農場見学



(オンライン親子料理教室)



(食育クイズ)

○学生によるレシピ考案

若者の食生活改善などを目的に、当事者である大学生に若者でも作りやすいレシピを考案してもらい公表しました。

レシピは、普段料理をしない若者でも簡単に作れることなどをテーマとして、聖徳大学の学生に27品を考案してもらいました（令和4年8月末時点）。

また、若い世代の利用者が多いレシピサイト「クックパッド」に松戸市公式アカウントを開設し、考案されたレシピを掲載しました。

クックパッド松戸市公式アカウントは、学生が考案したレシピの他、市の管理栄養士や食育ボランティアが考案したレシピなども掲載し、運用を続けています。



（クックパッド市公式アカウント）



（学生考案レシピ）



コラム⑥

クックパッド松戸市公式アカウント「まつどのキッチン」

令和元年11月、レシピ投稿サイト「クックパッド」に、松戸市公式アカウント「まつどのキッチン」を開設しました。

第3次松戸市食育推進計画では、若い世代の食育の推進を重点項目としていたことから、モデル事業の一環として、若い世代の利用者が多いクックパッドにアカウントを開設しました。

「まつどのキッチン」には、聖徳大学の学生が考案した若者向けの簡単なレシピの他、市の管理栄養士が考案した健康的なレシピ、保育所・学校給食のレシピ、松戸市の特産を使ったレシピなど、様々なレシピを掲載しています。



クックパッド
松戸市公式アカウント



○食育教材の作成

望ましい食習慣を身に付けてもらうことなどを目的に、児童と保護者を対象とした食育に関する教材を作成しました。

教材は「朝食」と「松戸市の特産」をテーマに、市の食育シンボルキャラクター「ぱくちゃん」が登場する絵本を聖徳大学児童学科の学生が制作しました。

完成した絵本は、松戸食育まつりのイベントの1つとして読み聞かせを行いました。



(読み聞かせの様子)



(朝食の絵本)

○市内イベント会場への食育啓発ブースの出展

「松戸まつり」や「松戸モリヒロフェスタ」など、市内で開催されるイベントの会場に食育の啓発に関するブースを出展しました。

食について楽しみながら学べるよう、「箸使いゲーム」や「野菜 350g 計量クイズ」など、体験型のブースを設けました。

また、来場者には景品として、松戸市特産の野菜などを配布しました。



(箸使いゲーム)



(野菜 350g 計量クイズ)

○農業体験

種まき、収穫、実食までの一連の流れを経験することで、地域で採れる食材の魅力を知り、食事に至るまでに多くの人々の苦勞に支えられていることなどを実感してもらうことを目的に、市内在住の小学生を対象に農業体験を実施しました。

21世紀の森と広場の中に畑を設け、参加者には種まき、畑の畝(うね)作り、施肥、除草などの作業を体験してもらい、最終日には収穫した野菜を使った豚汁などの料理を食べてもらいました。



コラム⑥

松戸市食育かるた

第2次松戸市食育推進計画のモデル事業として、平成28年1月に松戸市と聖徳大学が協働で「松戸市食育かるた」を制作しました。

食に関する意識を高めることを目的に、市内在住、在勤者から食に関連した読み札を募集し、237名の方から882作品の応募がありました。

聖徳大学の学生が応募作品の読み札の中から34句を選定、残りの10句を考案し、絵札のイラストも子どもから大人まで楽しめるデザインで制作しました。

製品化したかるたは市内保育所、幼稚園、小学校等に配布したほか、松戸市行政資料センターにて販売しています。



い
いただきます
ごちそうさまは
感謝の
気持ち



そ
育つて
る
あじさいねぎ
が
本寺
で

③モデル事業の主な実績と評価

事業名称	実績等	評価
松戸食育まつり	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者数 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 435名（保護者:175名・児童:260名） ・平成31年度/令和元年度 467名（保護者:190名・児童:277名） ・令和2年度 新型コロナウイルスの影響により中止 ・令和3年度(オンライン開催) 親子12組（児童14名） ・令和4年度(オンライン開催) 親子12組（児童15名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者を対象にしたアンケートでは、例年8割以上の参加者が食育に興味を持つきっかけになったと回答しており、子どもと親世代が望ましい食習慣を身に付けるための契機になったと考えられる。 ・令和元年度以前の対面開催時は、地産地消*、和食文化、歯磨き指導等、様々な食育のテーマを取り上げ、事業者や市内大学との連携により、内容を充実させることができた。 ・令和3年度以降のオンライン開催については、参加者からも好意的な意見が多く、デジタル化に対応した食育の推進の足掛かりとなった。
学生によるレシピ考案	<ul style="list-style-type: none"> ○考案レシピ数 聖徳大学児童学科・人間栄養学科の学生が27品のレシピを考案 ○クックパッドの開設 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年11月、クックパッド松戸市公式アカウント「まつどのキッチン」を開設。 ・累計アクセス数：601,107件 (令和4年8月末時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に不慣れな若者でも簡単に作ることができるレシピの考案や、市公式クックパッドの開設に至り、若い世代の食育に繋がるツールが得られた。 ・レシピ考案に携わった学生自身が食に関心を持つ契機になったと考えられる。 ・食育に関する市民アンケート調査の結果では、市公式クックパッドの認知度が低く、今後の活用に向けては周知が課題となる。
食育教材の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳大学児童学科の学生との協働により、「朝食」、「松戸市の特産」をテーマにした食育の絵本を作成。 ・令和3年度、4年度の松戸食育まつりにおいて、オンライン上での読み聞かせを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当初想定していた製作の行程とすることができず、十分な活用の機会を設けることができなかった。 ・今後の活用に向け、機会の創出が課題となる。
市内イベント会場への食育啓発ブースの出展	<ul style="list-style-type: none"> ○来場者数 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 計1,075名 ・令和元年度 計980名 ・令和2年度、3年度 新型コロナウイルスの影響により中止 ・令和4年度（松戸モリヒロフェスタのみ） 計144名 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代の市民が多数来場し、広く食育に関する啓発を実施する機会となった。 ・千葉県内の主要農産物が掲載されたクリアファイルや、松戸市特産の野菜等を景品として配布したことで、地産地消*の推進にも寄与した。
農業体験	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度 ○参加者数 18世帯（児童22名） ○各回の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：施肥、畝作り、種まき・苗植え ・第2回：追肥、間引き、一部収穫 ・第3回：間引き、土寄せ、一部収穫 ・第4回：収穫、試食 	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市内、千葉県内で採れる野菜の生育から実食まで体験することで、地域の食材とその魅力を伝えることができた。 ・参加者を対象にしたアンケートでは、体験に参加したことで、8割以上の児童が食への関心や農業への興味を持ったと回答した。また、9割以上の児童が以前より野菜の食べ残しが減ったと回答しており、生産者への理解や食習慣改善に繋がったと考えられる。

④指標及び目標値の達成状況

第3次松戸市食育推進計画では6つの指標及び目標値を設定し、その達成に向けてモデル事業等を実施しましたが、目標値に達した項目はありませんでした。

指標項目のうち、「食品ロス削減のために意識して食材を購入、調理、外食時に注文している市民の割合」のみ改善が見られましたが、その他の項目は悪化しています。

No.	指標項目	第3次計画策定時の値(H28)	現状値 ^{※1} (R3)	目標値	達成状況
1	食育に関心のある市民の割合の増加	75.8%	66.2%	90%以上	×
2	朝食を欠食する子どもの割合 ^{※2} の減少	小学2年生 1.2%	小学2年生 1.9%	0%	×
		小学5年生 3.4%	小学5年生 4.4%		
		中学2年生 4.9%	中学2年生 7.1%		
3	朝食を欠食する若い世代(20歳代~30歳代)の割合の減少	20歳代 15.7%	20歳代 18.9%	10%以下	×
		30歳代 9.9%	30歳代 18.3%	5%以下	
4	農作業体験を趣味とする市民の割合の増加	36.6%	32.5%	40%以上	×
5	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上とっている市民の割合の増加	59.8%	51.0%	70%以上	×
6	食品ロス削減のために意識して食材を購入、調理、外食時に注文している市民の割合の増加	80.8%	84.6%	85%以上	○

(達成状況 … ◎：目標達成 ○：改善 ×：悪化)

※1 出典：松戸市「令和3年度食育に関する市民及び大学生アンケート調査」(指標項目2を除く)

※2 指標項目2のみ、第3次計画策定時の値は平成27年度の値。
出典：松戸市教育委員会「令和3年度食事に関するアンケート調査」